

スペイン・アルカラへ留学記

現地に行かないと分からない

留学に是非

チャレンジを！

人文学部人文社会科学科 4年 若狭茉樹

昨年9月からこの5月までスペインのアルカラ大学へ行ってきました。慣れ親しんだ日本から離れ、言語も文化も違う異国で過ごした9か月間は本当に貴重で、留学をして良かったと心の底から感じています。

平日は語学学校と大学の授業に参加し、土日は買い物や旅行と自由に過ごすのが基本でした。語学学校では、様々な国から集まった仲間たちと一緒にスペイン語を基礎から学びました。



週4回の授業のおかげでスペイン語も上達し、自分から発言する積極性も得ることが出来ました。帰国後も「もっともっと勉強を続けたい！」と思えるほどスペイン語が好きになりました。

他国から留学している同年代の学生が、「スペインの大学院に進みたい」、「将来仕事に活かしたい」といった明確な目標を持って勉強をしている姿からとても刺激を受けました。私自身、将来のことがあまり想像できていませんでしたが、留学をきっかけに興味の幅が広がり、現在の就職活動にも活かされているので、これもまた留学をして良かったと思える点の1つです。



語学学校のクラス

出会った友人達とは一緒に旅行へ出掛ける機会が何度ありました。大学が本拠のアルカラから1歩も出なかった週はほとんどなかったと言っても過言ではありません。



ゲルニカでの様子

訪れた場所で特に印象的だったのは、バルセロナとゲルニカです。スペイン北部のゲルニカでは、たまたま立ち寄ったカフェで知り合った現地の方に車で30分ほど離れた海まで連れて行ってもらいました。観光客のあまり訪れない海沿いの



バルセロナの様子

地区にも足を運ぶことが出来たり、道中もおすすめポイントを教えてくれたりと旅先ならではの出会いに感謝しました。

滞在中はずっとホームステイでした。ホームステイ先は4人家族で、兄弟2人と愛犬1匹の本当に温かい家族でした。ホストマザーは、まさに優しさの塊というべき人で、いつも助けられました。スペイン語がまだたどたどしかった最初の頃、一緒に買い物



に出かけ、頑張っているからといただいたプレゼントのブランケットは今でも宝物です。ホストファザーは、勤勉で、楽しむ時は思いっきり楽しみ、家族のことが本当に大好きな人でした。なかなか上手く会話に入れなかった私にも声をかけてくれて、日本文化について話す機会もありました。ホストブラザーの1人はアメリカへ留学中で会うことはできませんでしたが、弟の方はとにかくサッカーが大好きで、年齢が近かったこともあり大学のことなども相談出来る頼れる存在でした。

スペイン人の好きなのところの1つは家族を大切にるところです。キリスト教文化の影響



もあると思いますが、ホームステイ先では夕飯後には必ず家族団らんの時間を設け、その日の出来事を報告し合い、一緒にテレビを楽しんだりしました。

日本について話す機会も何度もあり、日本食に興味を持ってくれたホストファミリーとマドリードの日本食レストランに行った

こともありました。

ホストファミリーと日本食を食べに行った時

留学を通して感じたこと、学んだことはたくさんありますが、1番に言えるのは「現地に行かないと分からないことがたくさんある」ということです。日本人にはないスペイン人の陽気さやオープンな性格、一方でスペイン語を話せない人に対して少し優しくない部分もある国だということ、旅行中に見たヨーロッパの建造物も歴史を感じる素敵なものばかりでした。

もし、留学を迷っている人がいれば、ぜひチャレンジして欲しいです。留学を通して興味の幅が広がり、また今まで当たり前だった日本の風景も少し見方が変わりました。留学の経験は確実に自分自身に影響を与えてくれます。

(終)

